C－45　足の機能とはきものについて（第1報）

県立米沢女短大　徳永幾久　○山水きぬ　石山和子

目的　歩行は人間の生活行仂の中で最も基本的なものであり，日常動作に最も多く含まれている。歩行の機能は，性別，年令などにより異り，歩行運動は足袋などの穿くもの，下駄　靴などの履物の条件により更に変化する。そこで　体の機能に応じたはきやすいはきものを究明する目的で，足とはきものの機能的関係を明らかにしたい。

方法　1)地区50才60才70才の主婦各15名及び学生45名のアンケートと聴取による資料集計，項目は歩行及び生活状況　経験した履物種類とその経験状況　2)(1)の対象者に足部計測を行い計測値の集計，計測項目　1)周径（脛骨果～腓骨果，第1中足骨頭内側部～第5中足骨頭外側部，足首周，その他長径，幅径，厚径など10項目，3)写真等.

結果　1)50，60，70才の履物経験は殆ど変化なく　ポックリ（幼児）アトル(十字校)日和，駒下駄（戦前後）草履（S.40）の順で草履と靴は同時である。2)足袋は60，70才が紐足袋を経験後　木綿足袋の既製品となり草履をはく時期にタビックスに代る。3)足の外側形体は老人と学生に差がなく履物からの影響はみられない。4)同じく甲高（第1楔状骨商）寸法にも差がなく影響は考えられない。5)脛骨果と腓骨果の床面からの高さ寸法に老人の場合　縮少がみられた。6)体形の変形と思われるものは，脊柱のやや前屈約20%，腰屈曲の大きいもの7%，脚の屈曲（内股型）18%，（外股型）5%であり，老人の約半数は以前は農業人で現在も$\frac{1}{3}$は畑仕事をしている。7)25%の人は座りだこがあった。以上から老人と学生の足の概況をさぐりえたので，官能検査や運動実験を経て，歩行機能に適応したはきものを考えたい。